

「中堅のレベルアップ＝普及」による
「競技力向上＝活性化」への取り組み

奈良県帝塚山高等学校

稲 川 和 司

1. はじめに

現在、奈良県のバドミントン界のおかれている状況は、決して明るい状況ではない。(→次項「2. 奈良県のバドミントン界の状況」参照)

その状況を打開するために、奈良県バドミントン協会では、平成24年度より各連盟が連携し、小学生から成年まで各世代のトップレベルの選手を集め、競技力の向上にむけ継続的な練習会が実施されている。また、高体連バドミントン専門部としても、競技力向上に向けてどのような取り組みが出来るのかを模索しているところである。

トップレベルの強化はもちろんの事であるが、単にトップ層の強化だけではなく、中堅以下の選手に対する強化、初心者に対する指導を通して競技力の底上げをすることが、県内高校のバドミントン界全体の活性化に不可欠な要素ではないかと考える。

そこで、「中堅のレベルアップ＝普及」に対する様々な取り組みが、全体の「競技力向上＝活性化」にどのように繋がっているのかを察してみたい。

2. 奈良県のバドミントン界の状況

(1) 奈良県出身の有名選手

奈良県のバドミントンは、全国的にみてもジュニア層を中心に盛んであり、たくさんのオリンピック選手や日本リーガーを輩出している。

しかし、それらの多くは地域のジュニアチームでの指導により早くから頭角を現してはいるが、高等学校(場合によっては中学校)に進学する段階で、他府県の学校を選択し、奈良県内の高等学校には進学していない。(→表1参照)

表1 奈良県出身のオリンピック選手ならびに日本リーガーの出身高校

氏名	在籍チーム並びに実績	出身高校
水井妃佐子	バルセロナ・アトランタオリンピック代表	四條畷学園高校(大阪)
水井泰子	アトランタ・シドニーオリンピック代表	四條畷学園高校(大阪)
川前直樹	NTT 東日本在籍 ロンドンオリンピック代表	柏原高校(大阪)
今別府靖代	ヨネックス在籍	青森山田高校(青森)
今別府香里	ヨネックス在籍	青森山田高校(青森)
高橋礼華	日本ユニシス在籍	聖ウルスラ学院英智高校(宮城)
高橋沙也加	日本ユニシス在籍	高岡西高校(富山)
北はるな	七十七銀行在籍	聖ウルスラ学院英智高校(宮城)
久後あすみ	ルネサス在籍	四天王寺高校(大阪)
諸多大輔	NTTグループ東北在籍	柏原高校(大阪)

(2) 協会の登録人数の考察

平成23年度の日本バドミントン協会の会員登録人数について都道府県別に調査した結果、奈良県は「協会登録者／生徒数」について、全国47都道府県中、小学校では18位、中学校では34位、高等学校では45位と年齢が上がるにつれて大幅に減少している。さらに、協会の会員登録人数の「中学→高等学校にお

ける協会登録者数の増加率」については、３３都道府県がこの数字を増加させているにもかかわらず、奈良県は５０％減の全国で４０位という結果である。（→表２参照）

表２ Ｈ２３協会登録者数調査結果

協会登録者数／生徒数						中→高の協会登録者数増加率	
小学校		中学校		高等学校			
1	福井県	1	富山県	1	富山県	1	広島県
2	鳥取県	2	香川県	2	長野県	2	愛知県
3	石川県	3	長崎県	3	福井県	3	鳥取県
4	富山県	4	熊本県	4	鳥取県	4	秋田県
5	香川県	5	沖縄県	5	鹿児島県	5	島根県
・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・
18	奈良県	34	奈良県	45	奈良県	40	奈良県

（３）全国高等学校総合体育大会の奈良県代表の過去の成績

全国高等学校総合体育大会において、奈良県代表は１９６０年代～１９８０年代前半までを全盛として、

- ・学校対抗（男子） … 優勝 ４回 準優勝 ３回 ３位入賞 ５回
- ・シングルス（男子） … 優勝 ３回 準優勝 ５回 ３位入賞 ６回
- ・ダブルス（男子） … 優勝 ２回 準優勝 ２回 ３位入賞 ５回
- ・学校対抗（女子） … ３位入賞 ３回
- ・シングルス（女子） … 準優勝 ２回 ３位入賞 ２回
- ・ダブルス（女子） … 準優勝 １回 ３位入賞 ４回

という輝かしい成績を残しているが、平成７年を最後に、入賞から遠ざかっている。

平成２０年～平成２４年の５年間の奈良県代表の成績をみると、ほとんどが１回戦２回戦で敗退しており、かろうじて数回３回戦まで進出するベスト３２にとどまっている。（→表３参照）

表３ Ｈ２０～Ｈ２４全国高校総体の成績

年度	男女	学校対抗	シングルス		ダブルス	
		第１代表	第１代表	第２代表	第１代表	第２代表
Ｈ２０	男子	１回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退	２回戦敗退	１回戦敗退
	女子	１回戦敗退	２回戦敗退	１回戦敗退	２回戦敗退	１回戦敗退
Ｈ２１	男子	２回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退	２回戦敗退
	女子	１回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退	２回戦敗退
Ｈ２２	男子	２回戦敗退	２回戦敗退	１回戦敗退	２回戦敗退	２回戦敗退
	女子	１回戦敗退	ベスト３２	１回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退
Ｈ２３	男子	１回戦敗退	２回戦敗退	ベスト３２	２回戦敗退	１回戦敗退
	女子	１回戦敗退	２回戦敗退	１回戦敗退	ベスト３２	２回戦敗退
Ｈ２４	男子	１回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退	２回戦敗退	２回戦敗退
	女子	１回戦敗退	１回戦敗退	１回戦敗退	ベスト３２	１回戦敗退

(4) 奈良県のバドミントン界の状況のまとめ

(1)～(3)の項目をまとめると、現在、奈良県のバドミントン界のおかれている状況は、平成10年くらいから現在に至るまであまり望ましいものとは言えない。そして、このままでは状況はさらに悪化し、如いては全国的な実力だけではなく、高等学校の部活動におけるバドミントンの競技人口が減少し、それが県内の競争の易化に繋がり、それが県代表の実力低下を招き、“全国では勝てない”という状況に陥ってしまう危険性すらある。

この状況の打開策として、平成24年度より奈良県の高体連バドミントン専門部や中体連バドミントン専門部も協力する体制の中、奈良県バドミントン協会が主体となって、「奈良県バドミントン協会選手強化事業」が開始された。これは、小中高の全国大会で上位入賞を果たし、将来、日本代表選手として、オリンピック等の国際大会で活躍できる選手を発掘し育成することを基本理念とし、小中高の各部門から選考された選手を強化選手に指定し、小中高の交流（強化練習会等）が1ヶ月に1度程度の頻度で実施されている。

3. 高体連バドミントン専門部としての取り組み

(1) 近畿大会出場選手の強化練習会

毎年、近畿高等学校バドミントン選手権大会（近畿大会）の奈良県予選が8月下旬に行われ、近畿大会の本戦が11月中旬に行われている。そこで、予選によって選出された男女シングルス・ダブルスの代表選手（各12組12名）を対象に、本戦の前に奈良県高体連バドミントン専門部主催で強化練習会を行っている。これは、奈良県代表として、近畿大会本戦で少しでも上位入賞を果たすことと、奈良県の選手団として士気を高めることを目的として10数年来、毎年、実施している。

(2) 指導者講習会

各学校のバドミントン部の顧問の中で、バドミントンを専門でされていた先生はほんの一握りであり、ほとんどの先生が顧問になってからこの競技に触れることとなり、各先生が個々に勉強され、日々の指導にあたられているという状況である。

そこで、バドミントンの経験のない先生はもちろんのこと、かつて自らがバドミントンの競技者であった先生にも、バドミントン界の最新のトレンドを知ってもらい指導に活かしてもらうことを目的として、平成24年3月に奈良県高体連バドミントン専門部主催で、指導者講習会を実施した。元日本代表で日本体育協会公認コーチの鈴木草麻生氏に講師を依頼し、県内高校の顧問の先生約20名が参加した。（→写真1、2参照）

写真1 指導者講習会の様子1



写真2 指導者講習会の様子2



(3) リーダー研修会

奈良県高体連バドミントン専門部では、各学校の選手の中からリーダーを目指す男女各1～2名を対象にしたリーダー研修会を年に一度実施している。例年は、高体連の強化部スタッフ（顧問）が講師となり実施していたものを、平成25年3月には、バルセロナオリンピック代表の岩城ハルミ氏に依頼して実施した。県内高校のリーダー候補の生徒約100名が参加した。（→写真3、4参照）

写真3 リーダー研修会の様子1



写真4 リーダー研修会の様子2



(4) 中堅校合同練習会

奈良県高体連バドミントン専門部に所属する有志の顧問数名により、いわゆる中堅校（県内大会ベスト8以下の選手を有する学校）合同練習会と銘打った練習試合が計画され、平成25年1月の新人大会の1週間前に実施された。各学校の選手をレベル別にA～Dのランク（A：県ベスト4～16を目指す B：県ベスト32を目指す C：2回戦突破を目指す D：初戦突破を目指す）に分け、それぞれランクごとに会場を分け、それぞれのランク同士で実力の拮抗した試合をたくさん経験することで、それぞれのレベルアップを図り、特にAランクの選手たちの中から県内の強豪校と言われる学校に対抗できる力を付けてもらいたいというものである。呼びかけの結果、県内の加盟校の半数以上に当たる学校の生徒男女400名近くが参加した。平成25年4月には、中堅校の各校主力メンバー（約7名）による団体戦形式の練習試合が計画され、約10校が参加した。

4. 取り組みの成果について

指導者講習会については、顧問の先生方に最新のバドミントンのトレンドを知っていただくことができた。そして、それを日々の生徒への指導に活かしてもらっている。これまでは自ら動いて指導されていなかった先生も、この講習会をきっかけにして、直接ラケットを持って指導に当たられる先生も出てきたという報告を受けている。

リーダー研修会については、終了後に参加生徒にアンケートを行った。「研修会に参加して良かったか？」という質問に対して、「とても良かった」が57名、「良かった」が39名、「普通」が1名、「良くなかった」が0名という結果であり、ほぼ100%の生徒が研修会について非常に満足していたようである。その理由について質問した回答としては、「オリンピック選手に教えてもらえて良かった」、「普段できない練習メニューができた」、「練習に対する意識の大切さを知ることができた」、「違う学校の人と一緒に練習して刺激になった」などが挙げられていた。また、「このような研修会を次回もやって欲しいか？」という質問に対しては、参加者全員が「やって欲しい」という回答であった。「研修会に対するリクエストはあるか？」という質問に対しては、「もっと研修の時間を多く取って欲しい」、「試合での実践的なことを教えて欲しい」、「講師の方と

一緒にプレーしたい」、「質疑応答ができる場面を作って欲しい」などとても前向きな意見が挙げられていた。

中堅校合同練習会については、普段の練習試合では中々実現が困難な様々な相手とレベルの合った試合をたくさん経験することができ、どの生徒も非常に満足していた。また、たくさんの学校の生徒が一同に集まるため、公式戦さながらの緊張感のある練習会となった。

平成21年～平成25年の5年間の全国高等学校総合体育大会奈良県予選における個人戦（男・女、シングルス・ダブルス）におけるベスト4以上、ベスト8以上（ベスト4以上含む）、ベスト16以上（ベスト8以上含む）の選手の所属する学校の数（同じ学校で男女はそれぞれでカウント）を調査した結果、ベスト4以上とベスト8以上に入った学校数は、平成25年が最多（ベスト8以上は平成23年と同数）となっている。これは、中堅校が上位に進出したという結果であり、「中堅のレベルアップ＝普及」の成果として表れたと言えるのではないかと（→表4参照）

表4 全国高校総体県予選における学校数

年度	H21	H22	H23	H24	H25
ベスト4	4	6	7	5	8
ベスト8	9	9	11	8	11
ベスト16	17	21	24	19	21

5. 今後の展望について（まとめ）

外部講師に依頼しての指導者講習会やリーダー研修会はそれぞれまだ1回だけの実施であり、それが大きな成果につながっているかどうかは、計れない部分があるが、研修会での生徒のアンケート結果からも見て取れるようにバドミントン競技に対する取り組みの意識に対して影響を与えることができているのは確かである。また、中堅校合同練習会は有志による企画であったが、奈良県高体連バドミントン専門部の事業として取り組むことも視野に入れて検討しており、継続して定期的実施する予定である。

これらの取り組みを継続して行っていくことにより、「中堅のレベルアップ＝普及」がさらに進み、それが県内の競争を活性化させることになり、やがては「競技力向上＝活性化」に繋がっていくと信じている。

<参考文献>

- ・奈良県高等学校体育連盟バドミントン専門部発行「SHUTTLE」
- ・奈良県高等学校体育連盟バドミントン専門部発行「SHUTTLE別冊試合結果記録集」
- ・バドミントンマガジン各号（インターハイ結果特集号）ベースボールマガジン社
- ・HP バドミントン動画 サイト | SMASH and NET.TV 選手名鑑 <http://www.smash-net.tv/>
- ・HP 総務省統計局 都道府県別学校数、教員数と在籍者数
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/zuhyou/n2200200.xls>
- ・HP 日本バドミントン協会 日本協会会員登録数 <http://www.badminton.or.jp/nba/toroku23.pdf>